

表-2 対策の内容とその評価値

番号	対策・政策の内容	重み	評価1	評価2	評価3	評価4	総合	順位
			0.329	0.422	0.145	0.104	評価	
1	市町村広報誌による情報提供		5.33	5.00	5.37	5.37	5.20	13
2	学校教育活動との連携		5.59	4.51	4.92	4.88	4.96	16
3	スポーツ活動との連携		4.85	4.85	4.44	4.07	4.71	20
4	文化活動との連携		5.29	5.25	4.51	4.40	5.07	14
5	イベント情報の提供		5.77	6.00	5.25	4.96	5.71	4
6	交通費の補助		5.14	3.88	3.88	3.11	4.22	24
7	交通情報の掲載		4.77	5.07	4.88	4.96	4.93	18
8	情報ネットワークの活用		4.55	4.74	4.37	5.51	4.70	21
9	旅行代理店への働きかけ		5.92	5.44	4.92	4.18	5.39	10
10	マスコミの活用		6.88	6.25	4.29	4.51	6.00	1
11	地域タイアップ番組の作成		5.88	5.85	3.59	4.11	5.35	11
12	旅行雑誌の活用		6.40	5.59	3.85	4.55	5.50	8
13	県関係機関の活用		5.25	5.22	5.29	5.03	5.22	12
14	写真・作文コンテストの実施		3.85	3.92	4.96	5.03	4.16	25
15	名誉沿線名人制度の委嘱		3.55	4.07	4.85	4.55	4.06	26
16	ふるさと名人制度の実施		4.48	4.63	4.59	4.66	4.57	23
17	既存イベントとの連携		6.07	6.00	4.92	3.59	5.61	5
18	在来線や新幹線との連絡		6.63	5.77	5.77	3.92	5.86	3
19	バスとのアクセス向上		6.14	5.96	4.55	3.70	5.58	7
20	駅舎の活用		5.25	5.48	3.88	4.33	5.05	15
21	駅周辺の整備		5.37	5.03	3.63	4.77	4.91	19
22	マイルール意識の高揚		5.59	5.59	5.03	4.74	5.42	9
23	沿線のコンセプトの統一		4.59	4.55	4.92	4.29	4.59	22
24	シャトルバスの運行		6.48	6.00	3.81	3.81	5.61	6
25	特産品等の新製品の開発販売		5.44	6.81	5.22	4.59	5.90	2
26	観光や交通情報の提供		5.03	4.29	4.74	5.14	4.95	17

評価1:利用客の増加、評価2:地域の活力向上、評価3:財政の負担
評価4:組織間の調整

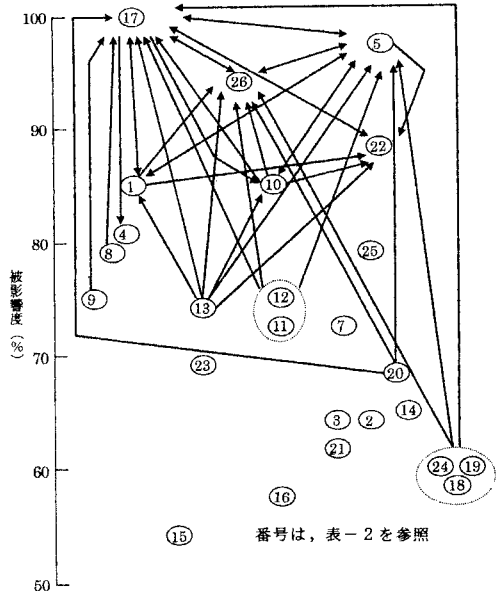


図-2 DEMATEL法による対策間の関連図

「25.特産品等の開発販売」「10.マスコミの活用」等が効果的な対策となっている。これらの各対策を実施した場合の評価値と各評価項目の重みを考慮して総合評価を行った結果、最も効果的な対策としては「10.マスコミの活用」が挙げられた。即ち、テレビやラジオ、新聞等を通して「ほくほく線」やその沿線情報を視聴者に提供することにより、利用者の増加や沿線市町村への交流人口の増加が期待されている。次いで重要な対策としては、「25.特産品等の開発販売」「18.在来線や新幹線との連絡」「5.イベント情報の提供」等が挙げられている。勿論これらの結果は組織により異なるが、その点に関しては、講演時に報告する。次に各対策間の連関構造について分析を行う。前述したように「10.マスコミの活用」が最も効果的な対策として取り上げられたが、各対策は必ずしも独立したものではなく、1つの対策を実施することにより、他の対策に影響を与えることが予想できる。ここではDEMATEL法を採用し、各対策間の連関構造を明らかにする。図-2は、DEMATEL法により求められた各対策間の関係を図示したものであり、縦軸は被影響度(全影響行列の列和)の最大値を100と基準化し、その値が大きいほど上位に配置し、横軸に関しては特に意味はない。従って、上位に位置する対策ほど他の対策から受ける影響が大きく、下位に位置する対策は他からあまり影響を受けないことが分かる。図-2と表-2を対比しながら検討を行うことにより、各対策の重要性と対策間の関連を読みとることができる。例えば、表-2で最も重要性の高かった「10.マスコミの活用」は、「22.マイルール意識の高揚」や「26.観光や交通情報の提供」「5.イベント情報の提供」「17.既存イベントとの連携」に影響を与えている。また「18.在来線や新幹線との連絡」「19.バスとのアクセス向上」「24.シャトルバスの運行」は、その総合評価値も高く、他の多くの対策に影響を与えていることから判断して、これらの対策が利用客の増加や地域の活力向上のための基本的な対策であることを示している。これらの各対策間の関連は組織により大きく異なることが考えられるが、この点に関しても講演時に報告する。

4. まとめ

本研究は、新線鉄道開通による利用客の増加と沿線市町村の地域活力向上を目的として、各方面から提案されている各種の対策について、その効果と対策間の連関構造を分析したものである。その結果、組織により各対策の評価や連関構造に違いがあることが分かった。